

YOU'VE BEEN TRICKING THEM... YOU'VE HIJACKED...



ROKU?!



ROKU REALLY IS...

AND ROKU...



GASP

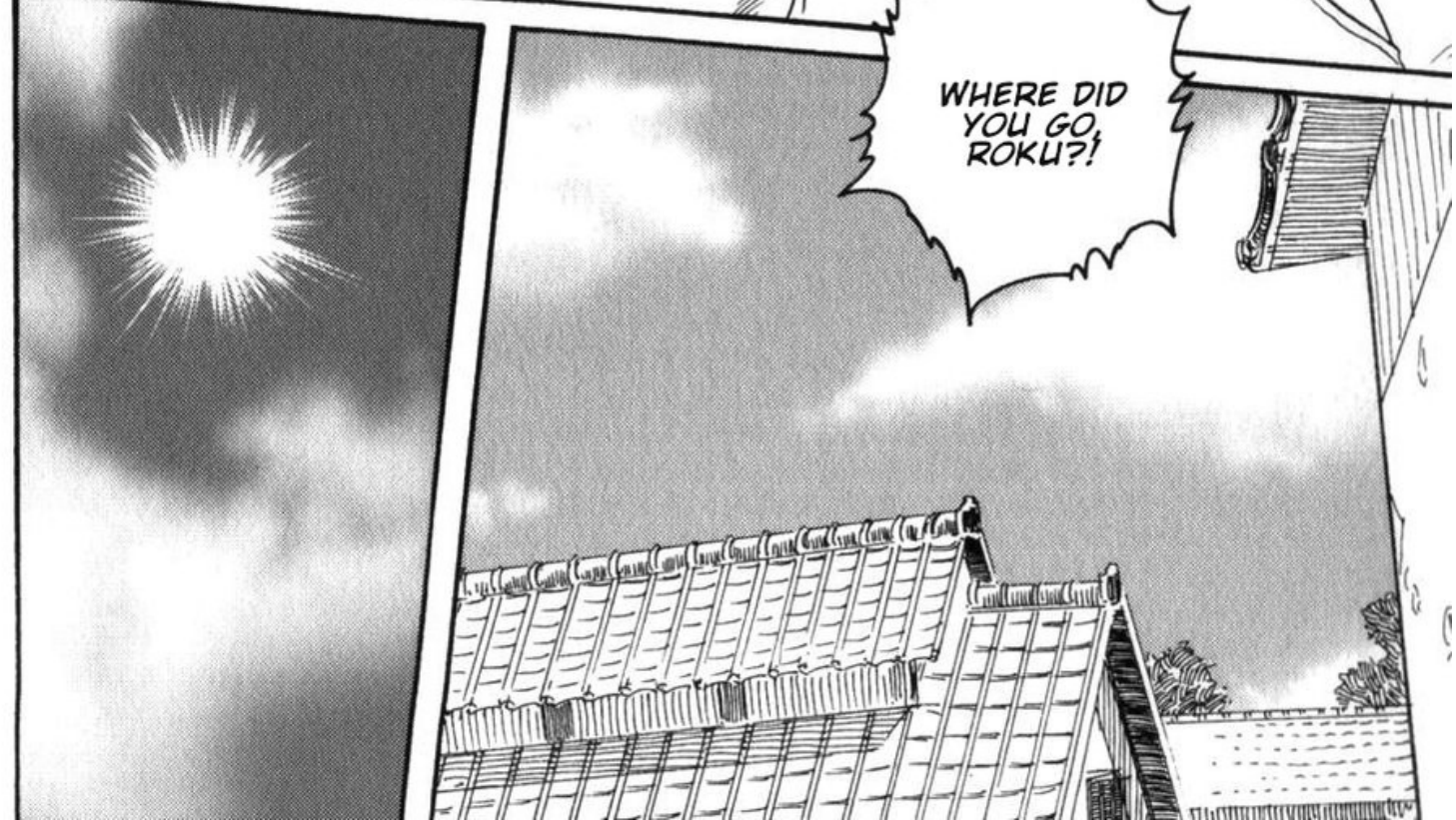




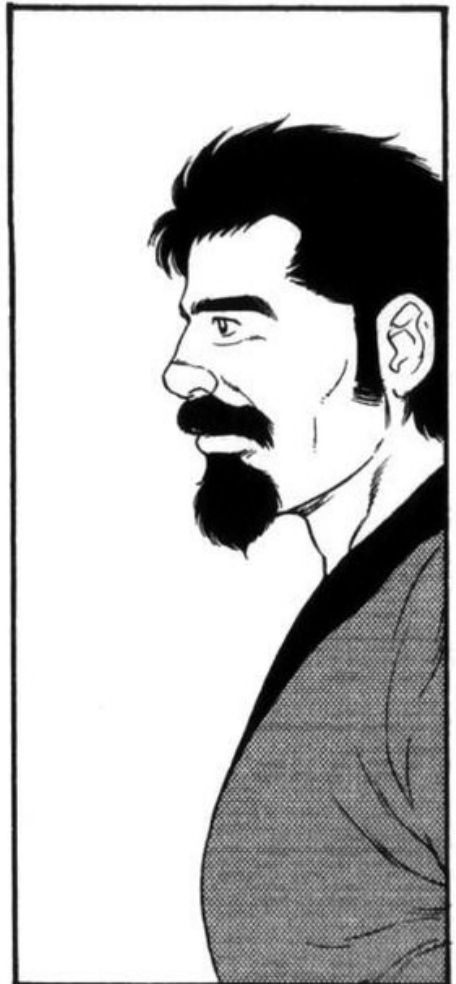
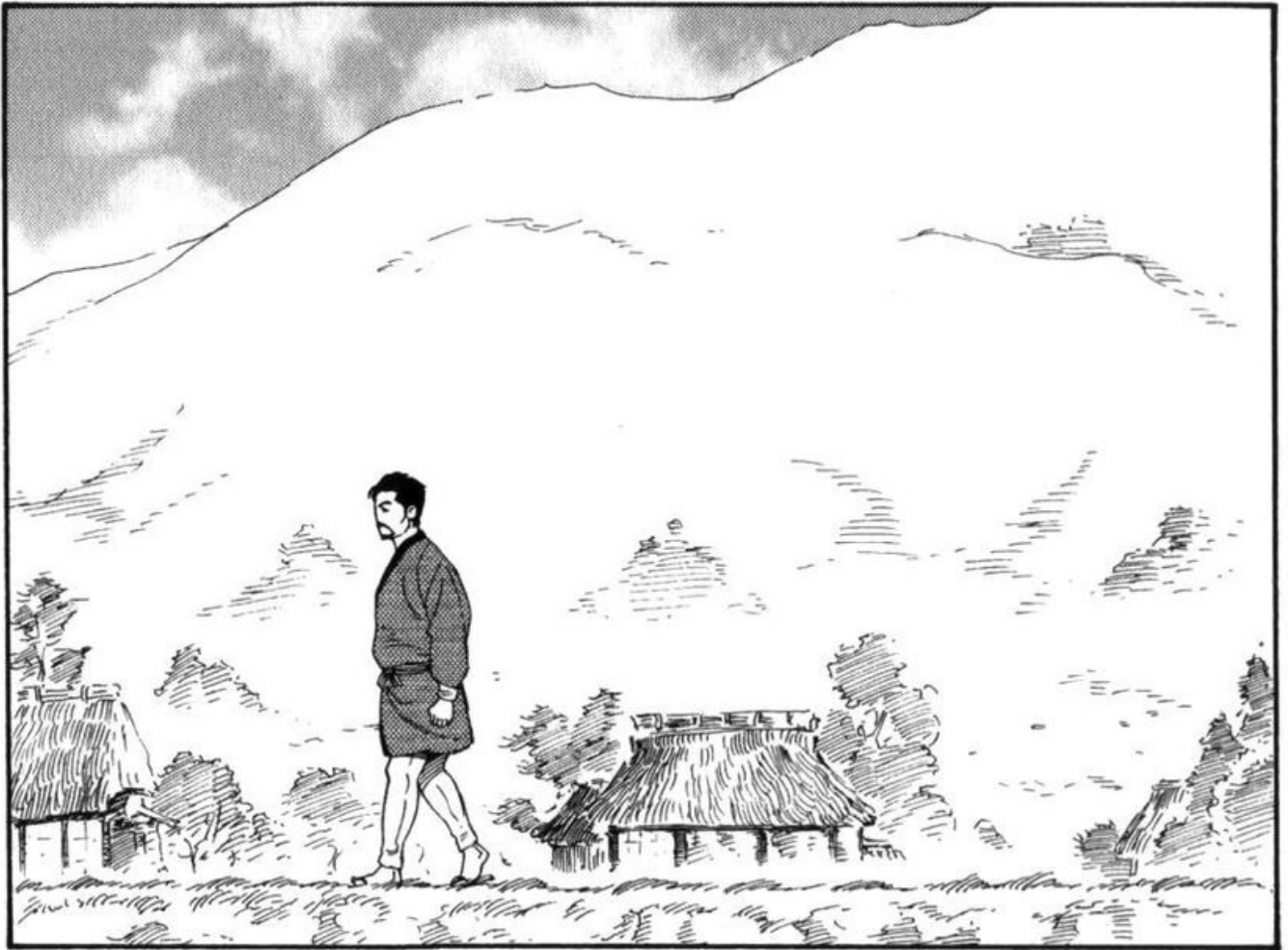
ROKU?!

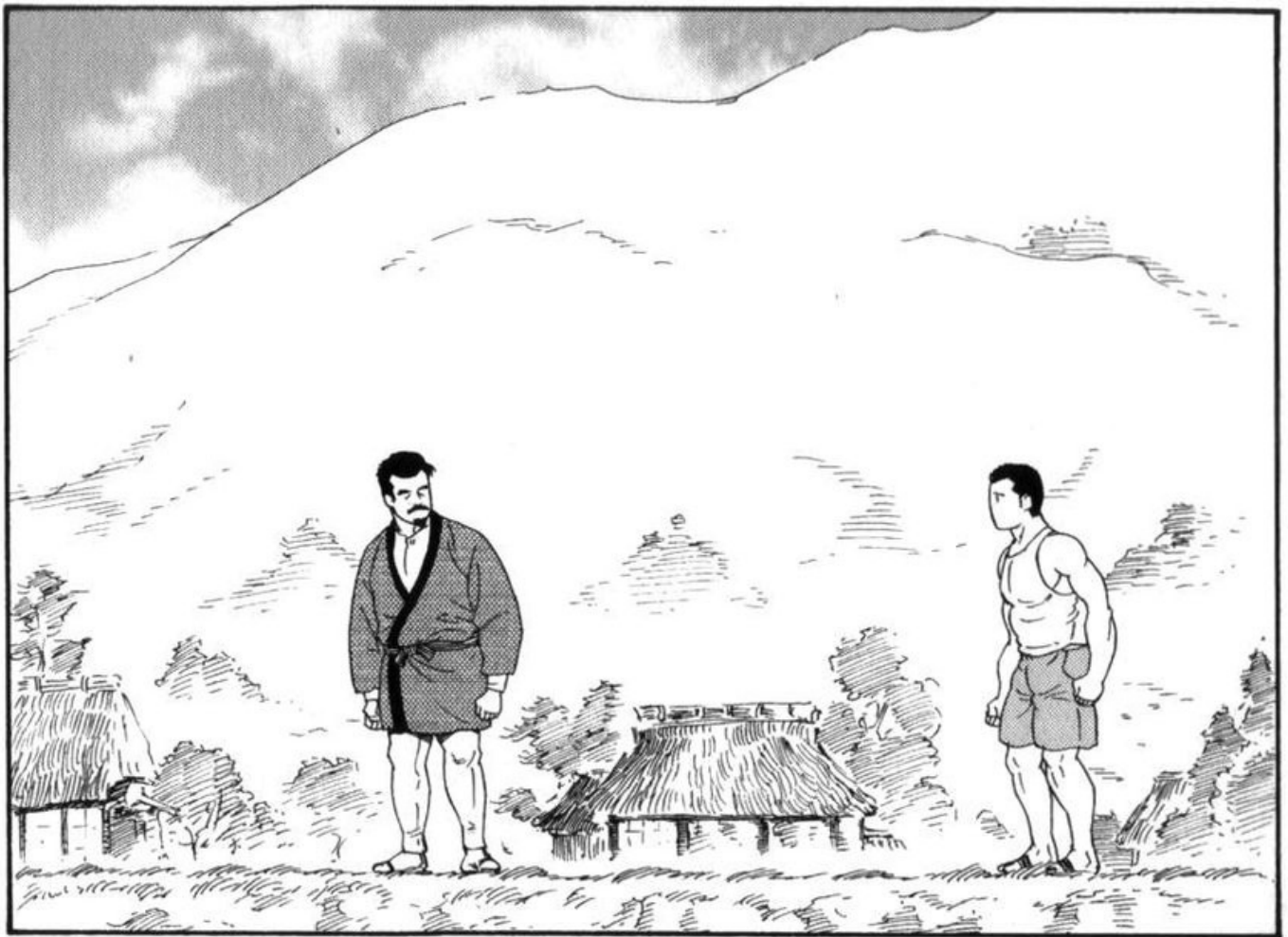


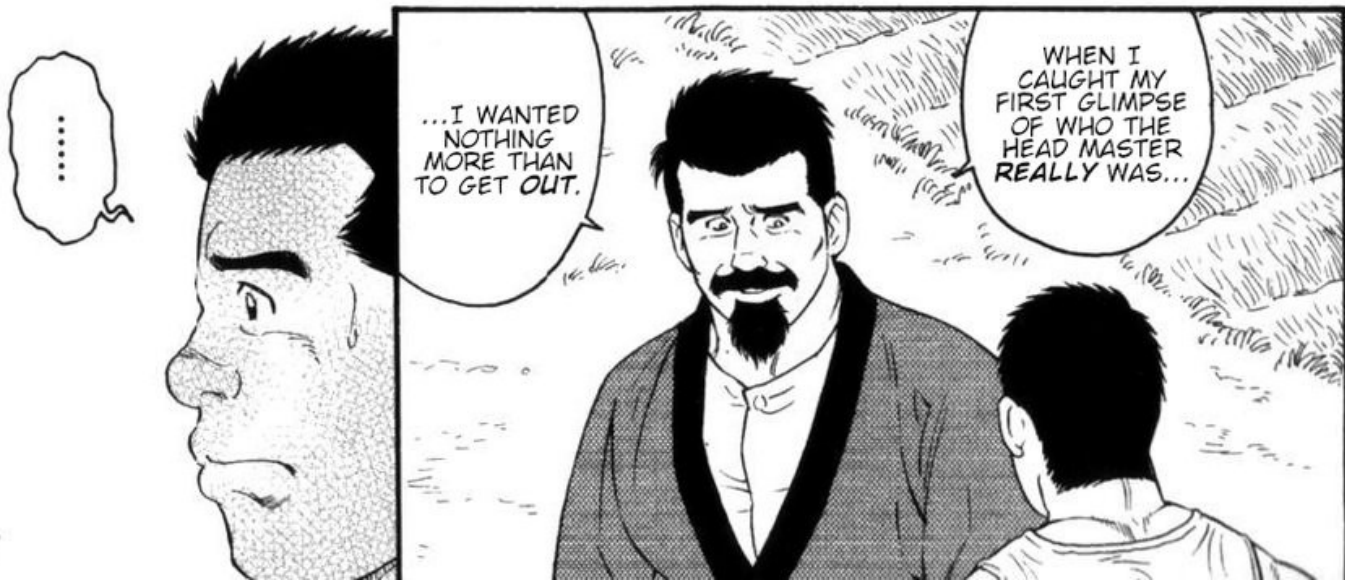
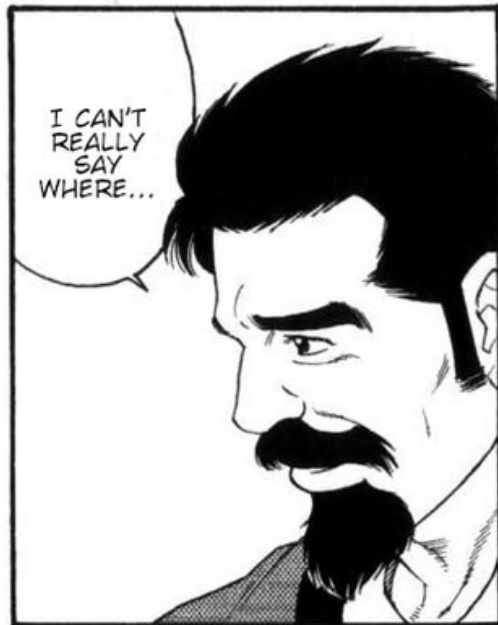
HEY, ROKU!!

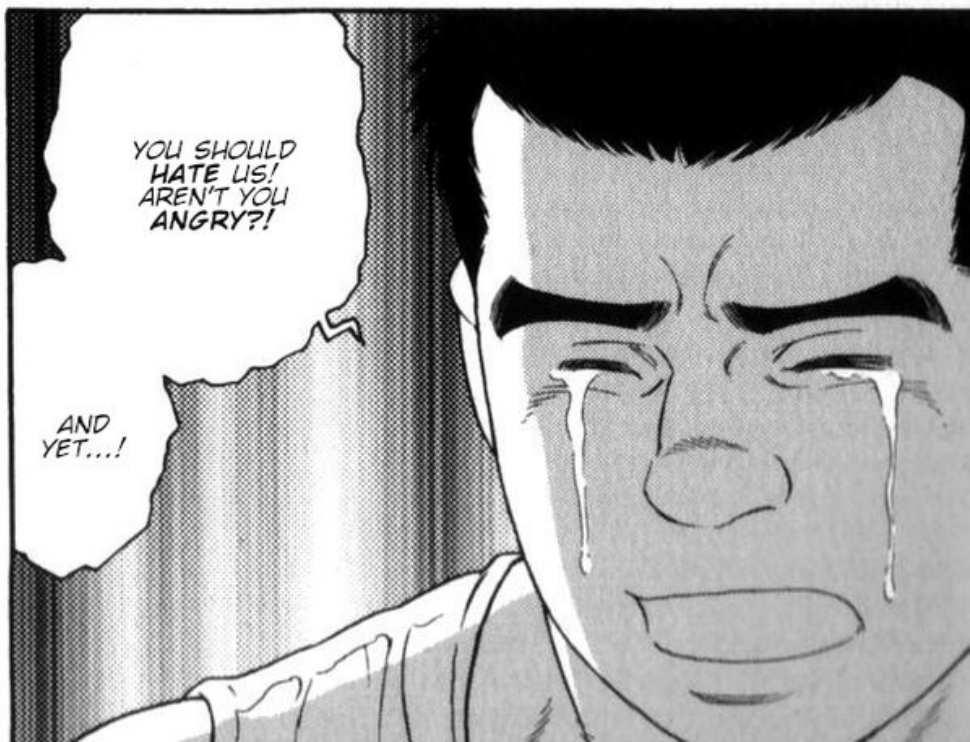
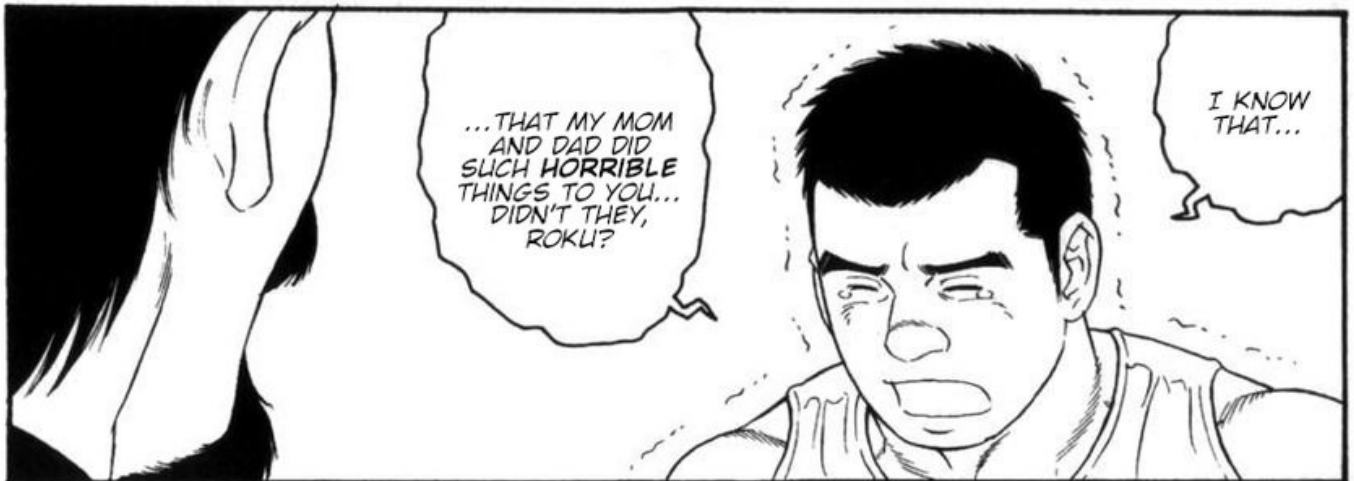
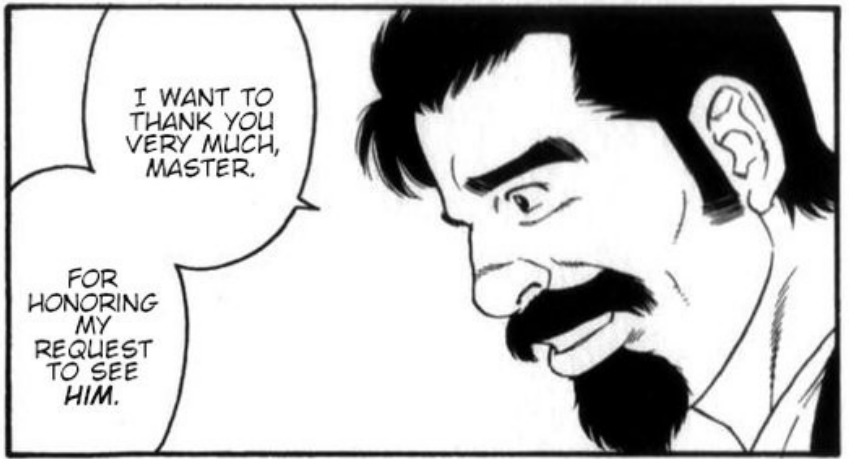
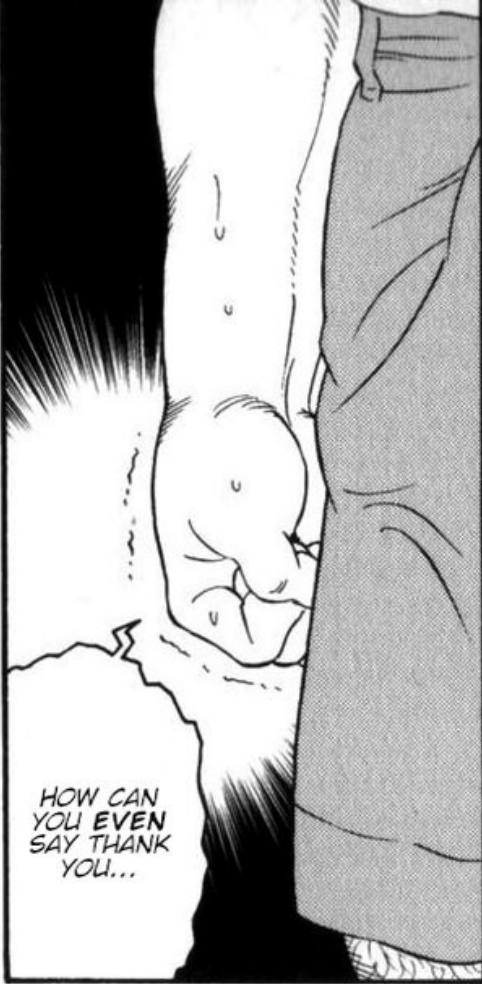


WHERE DID YOU GO, ROKU?!









I DON'T HATE ANYONE.

NO.



ALL OF THIS IS BECAUSE OF MY DAD...!

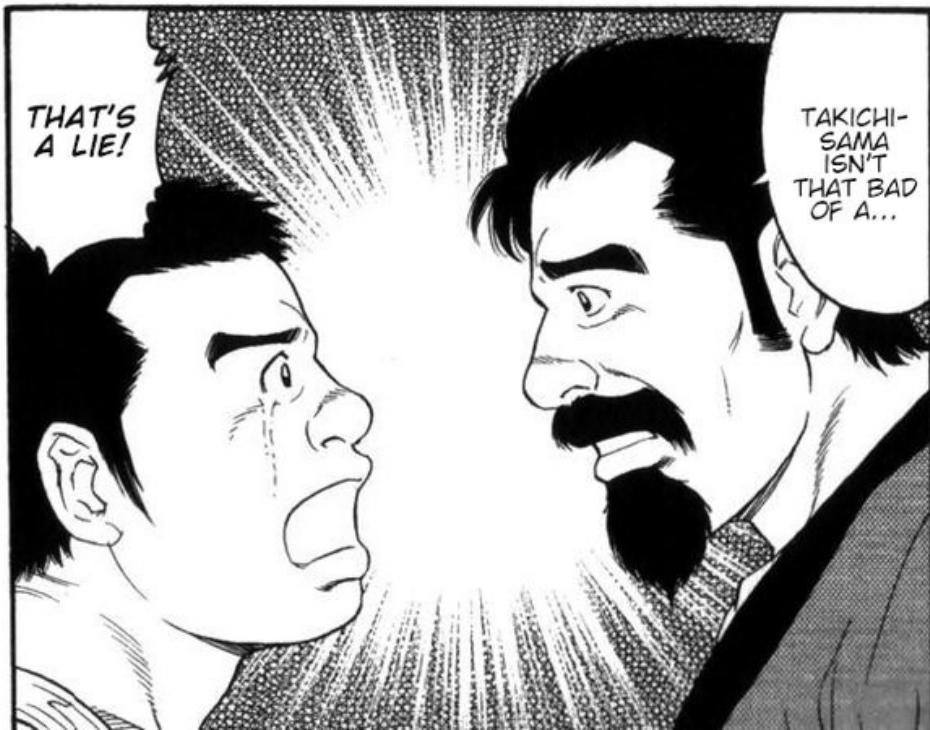
YOU WEREN'T REALLY A SERVANT, ROKU...

THE HOUSE ACTUALLY BELONGS TO YOU...

NO, IT'S NOT MASTER! NO, IT'S NOT!



DON'T HIDE IT! TELL ME!



THAT'S A LIE!

TAKICHI-SAMA ISN'T THAT BAD OF A...

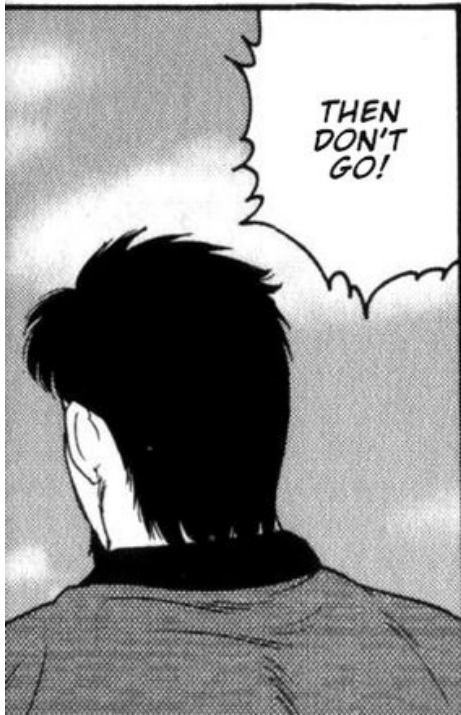


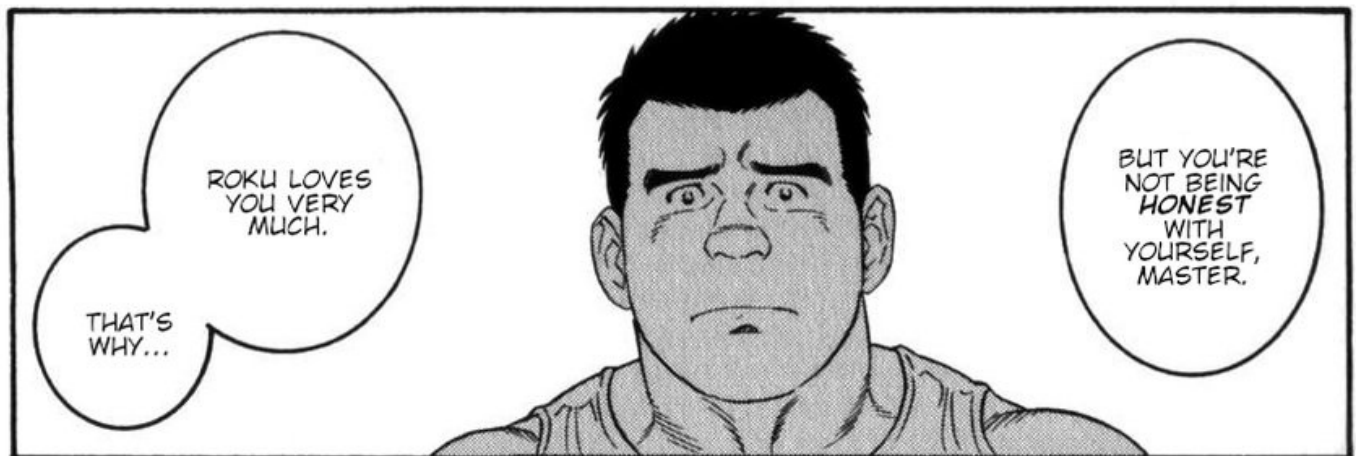
WHAT
HAPPENED TO
YOU IN THAT
HOUSE?!



GOODBYE,
MASTER.









DIED SIXTEEN YEARS AGO.

THAT CHILD'S FATHER... TORAZOU HORIKAWA.



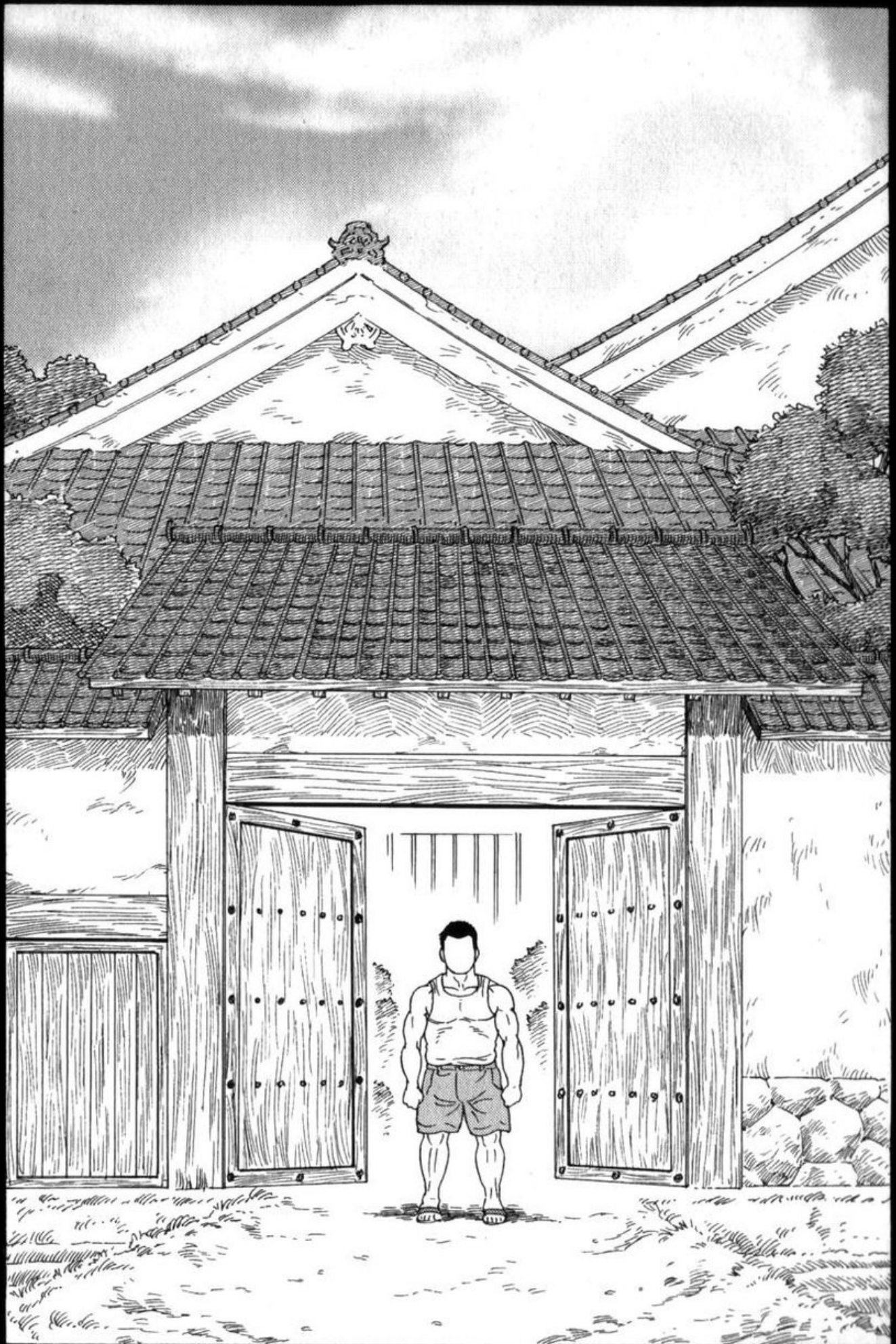
AND...



AND WHAT ABOUT SOU-CHAN?!



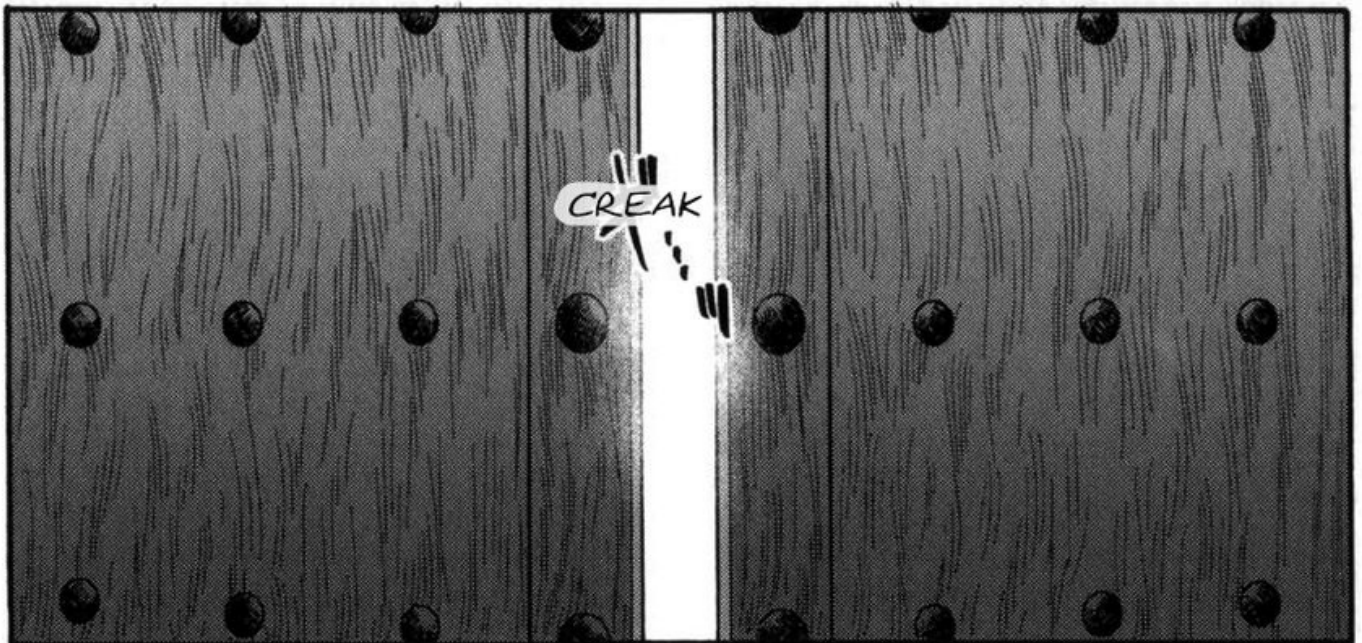
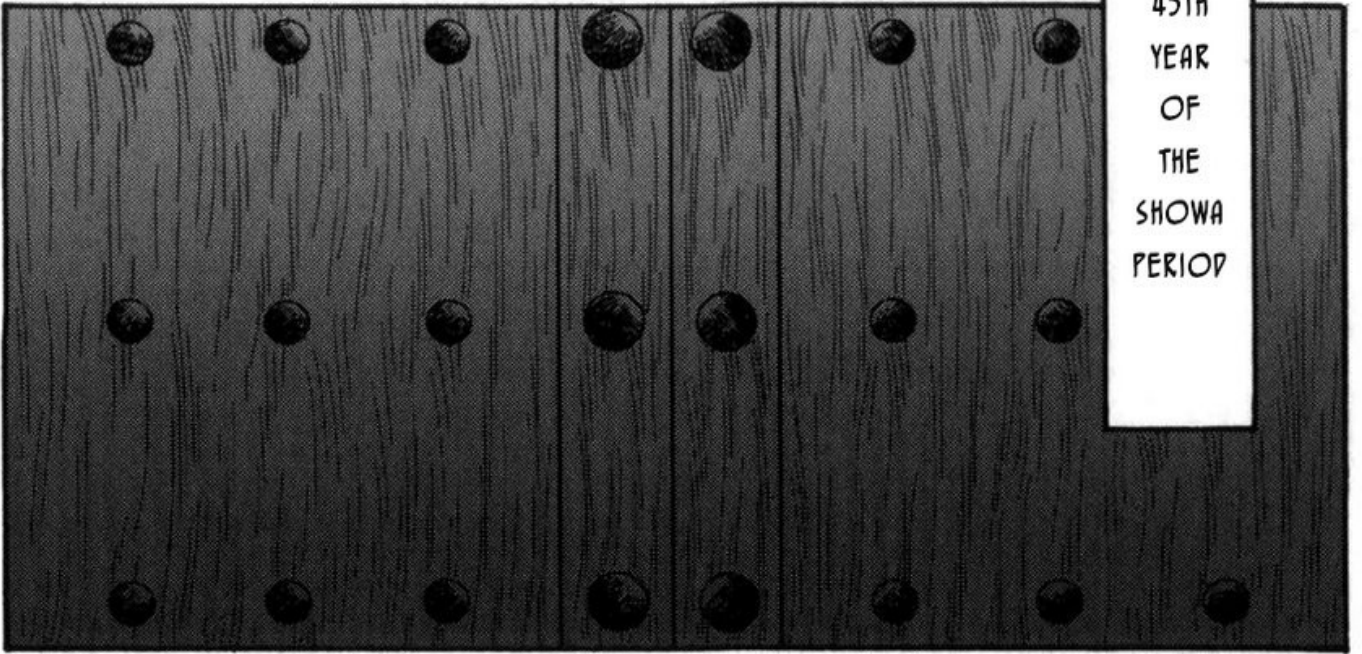








45TH
YEAR
OF
THE
SHOWA
PERIOD





STARTING TODAY, YOU ARE OFFICIALLY THE HEAD OF THE HORIKAWA FAMILY.

COME NOW, SOUTAROU-SAN.



THIS ZASHIKI* WILL BE YOURS.

.....



...IT SMELLS KIND OF MOLDY.



JUST KNOW THAT WE ARE DOING SOMETHING ABOUT IT.

UNFORTUNATELY, I'M STILL LOOKING FOR SOMEONE TO COME WORK FOR YOU.

UNTIL THEN, YOU'LL BE HERE ON YOUR OWN FOR A WHILE.

*NOTE: "ZASHIKI" IS A TATAMI ROOM



JEEZ... THIS IS ALL BECAUSE OF THAT KADOTA FAMILY.



MAYBE SOMEONE WAS COMING OVER TO LET IN THE WIND SOMETIMES...

AHH... OH, IS THAT RIGHT?



I KNOW, I'M SORRY, IT'S JUST I GET SO ANGRY WHEN I REMEMBER ALL THAT THEY DID...

HEY, TAEKO, THIS ISN'T THE TIME TO TALK ABOUT THAT...



DESPITE ALL THAT THEY DID, WHEN SOUEMON-SAMA WAS BEDRIDDEN...

THOSE TWO WERE TAKING CARE OF HIM FOR YEARS.



BUT, TAEKO...

YOU WERE FAR TOO KIND TO THEM WITH THE SETTLEMEN YOU GAVE THEM...

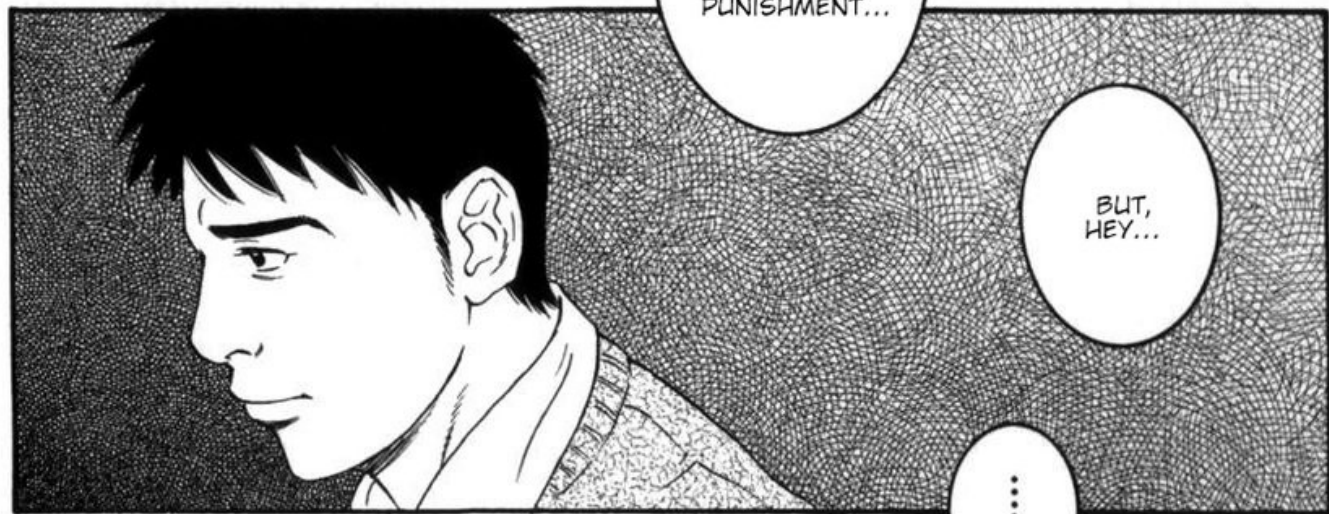
THOSE SCOUNDRELS DESERVED NOTHING MORE THAN STINKY, OLD RICE.



THAT FAMILY LEFT
THIS VILLAGE
ALMOST
PENILESS.

THEY
ATTEMPTED TO
EMBEZZLE
THE
INHERITANCE,
AND FAILED.

BUT STILL, I
DON'T THINK
THAT'S
ENOUGH
PUNISHMENT...



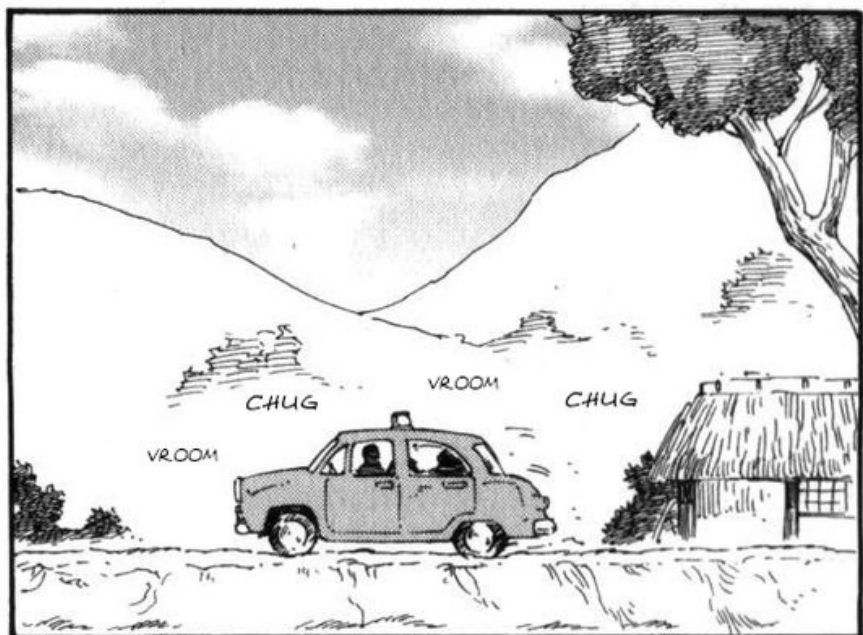
BUT,
HEY...

.....

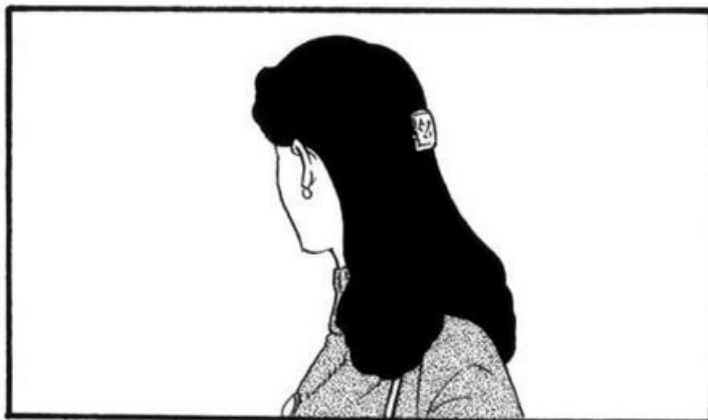
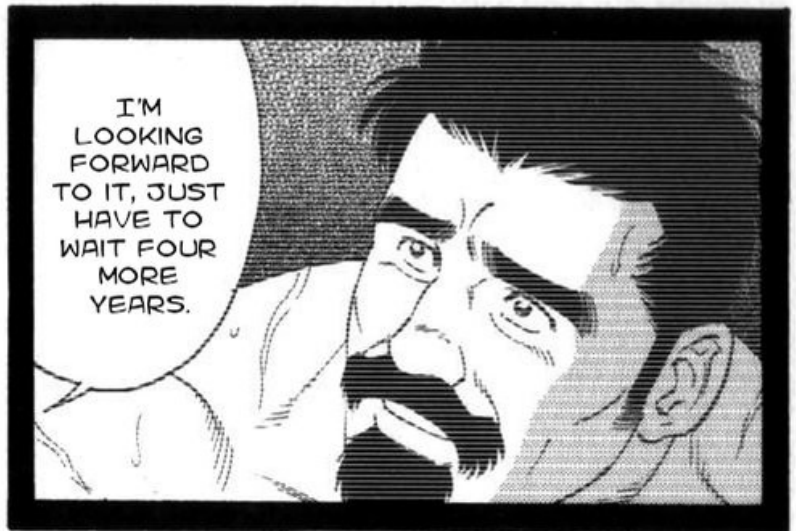


HMM?

DRIVER,
CAN YOU
PULL OVER
HERE?









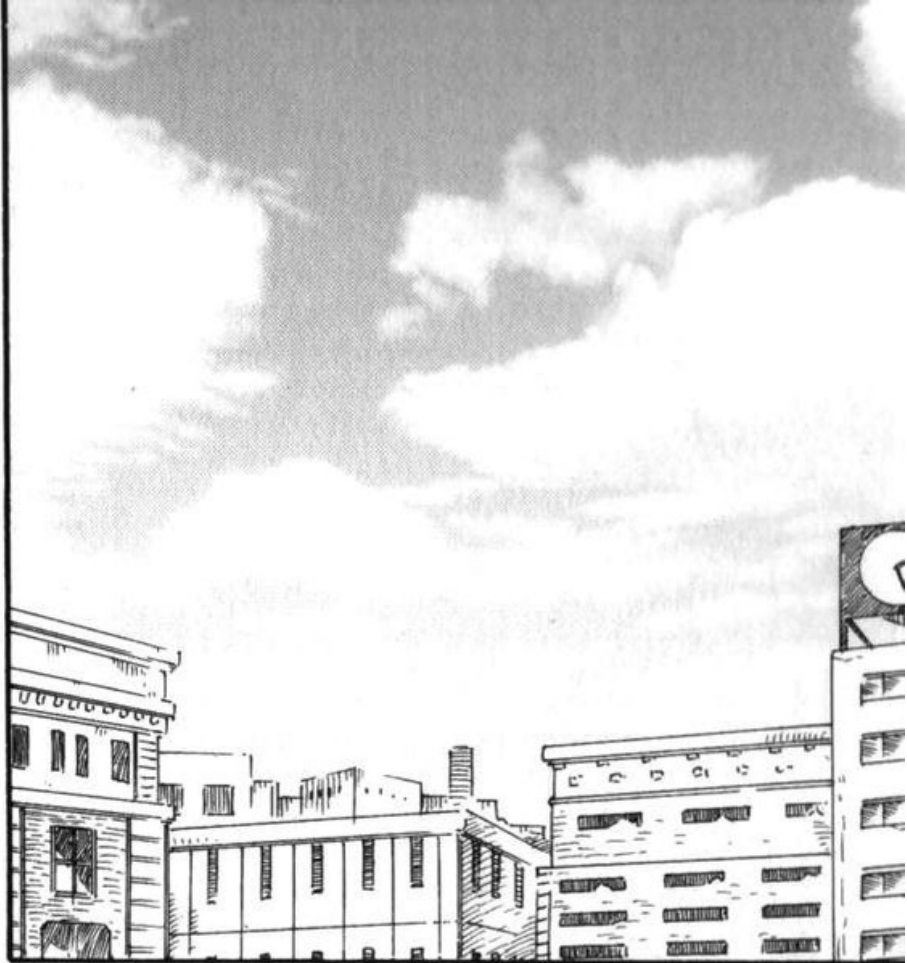


THAT...

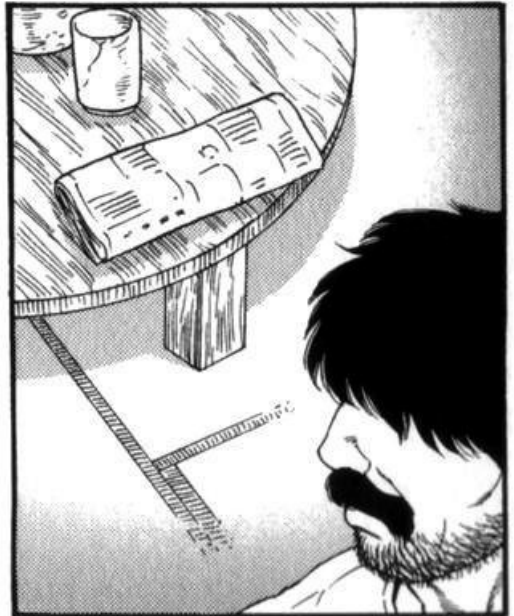
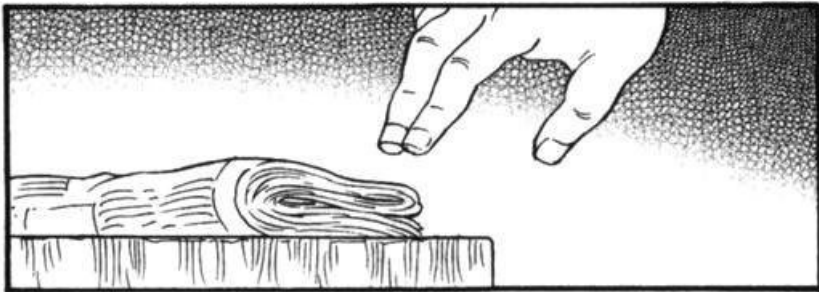
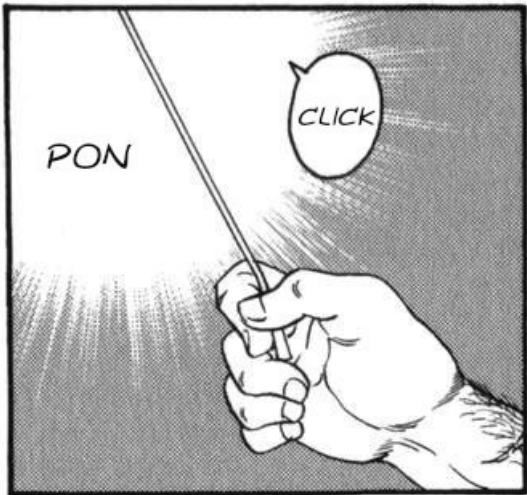
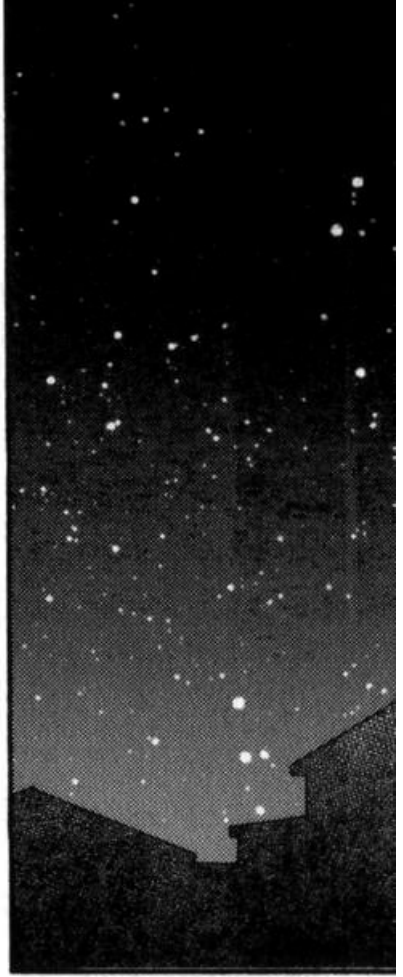
THAT
WOMAN...

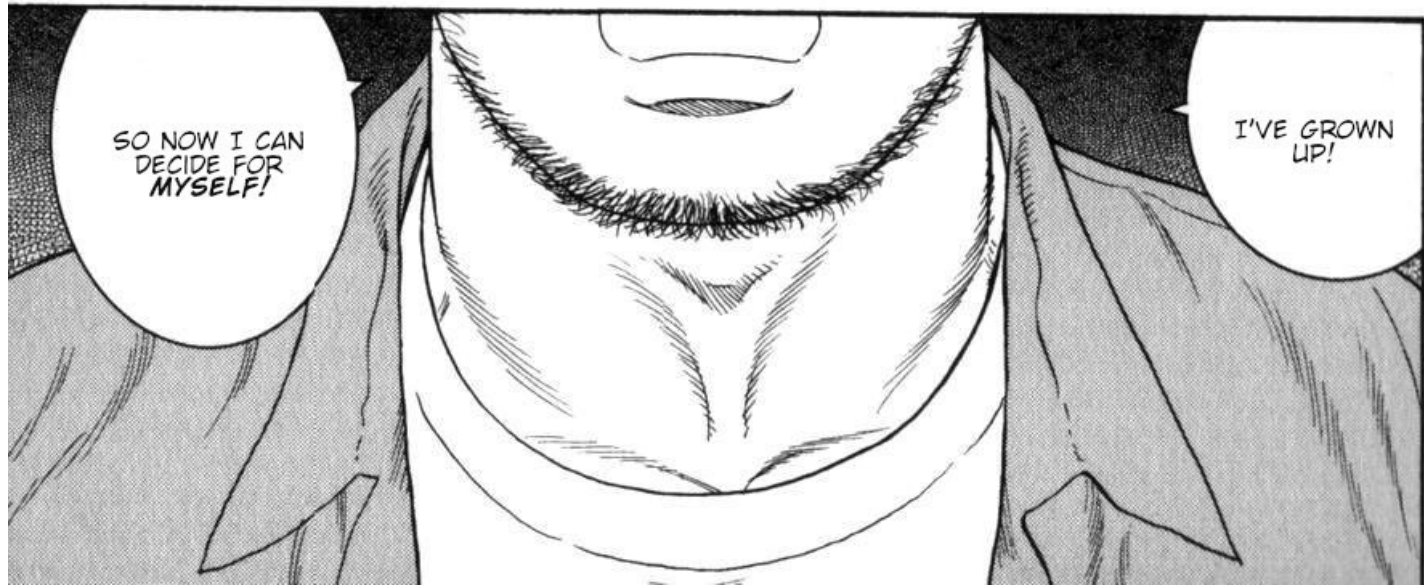


I'M SURE
THAT WOMAN...











I'M NOT
GOING BACK
HOME
WITHOUT
YOU!





THE END



TRANSLATED BY @TUKKEEBUM
FOLLOW ME ON TWITTER!

『外道の家』第33話～第48話

月刊パディ / 2006年2月号～2007年12月号掲載作品

解説『外道の家』 大西洋平

前置きはさておき、プロの「マンガ読み」の立場から言わせていただこう。このところずっと、ぼくは田亀源五郎さんの作品を読むたびに「手塚治虫」の名前を思い出さずにはいられないのである。

「SMゲイコミックの巨匠」と「マンガの神様」……意外に思われるかもしれないが、その関係はけっこう深根い。その理由の二つに、かつてぼくが「映画秘宝」という雑誌の連載で田亀さんにインタビューさせていただいたときに伺ったマンガ原体験の話がある。

実は田亀さんは幼少時代、教育熱心な両親のもとで、「超」のつくエリートコースを半ば強制的に突き進まされてきたガリ勉タイプの子どもだったそう。当然、「マンガ」の類は全て親によって購読が禁止されていたが、そこで唯一の例外として購入を許可されていたのが、手塚作品だったという。

ピンと来た方はその通り。そう、手塚治虫といえば、「リボンの騎士」に代表される「セクシユアリティもの」の第一人者でもあり、ずばぬけた猟奇性と変態性をさりげなくドラマに編み込んだ「変態マンガ」の父でもある。

そんなぼくの指摘に、田亀さんは「あの人（の作品）が一番危ないですよねえ」と余裕の笑顔で返すのみだったが、手塚マンガとサドの小説を愛読していた半ズボン時代の田亀さんの姿を思い浮かべてみて欲しい。氏の作風のルーツが少しだけかいま見える気がしないだろうか？

本作「外道の家」は、そんな氏が、手塚治虫の作品をおそらく初めて強く意識しながら8年にわたって手がけてきた作品である。

これも以前「本人から直接伺った話だが、意識したのは、手塚治虫が1972年に発表した「奇子（あやこ）」旧家を舞台に、不義の子として土蔵に23年間も幽閉された少女とその親族たちの数奇な運命を描いた、手塚インモラル劇画路線の頂点とされている異色作である。「奇子」と「外道の家」を比べてみると、「戦後の旧家」というシチュエーションはもとより、親子間の近親姦など因習めいた血縁関係、主人公が幽閉されている間の時代経過など、細かい設定にもかなりの数の類似点が存在する。

では、なぜ敢えて「奇子」だったのだろうか？



実は「奇子」にはもう一つ、田亀作品に通底する異様な要素がある。

それは「閉鎖空間の愛憎劇」とでもいうべき独特のドラマツルギーだ。「奇子」の印象を特徴づけているのは、その前半部分のほとんどが、ひたすら閉じた「家の中」で進行しているという部分。閉鎖しているゆえに、登場人物たちは張り詰めた人間関係の中で互いの欲望と憎悪を増大させ、やがて物語後半で悲劇にみまわれていくのだ。

田亀さんの代表的な作品というのは、実はそのほとんどが「閉鎖空間」を舞台にした人間ドラマである。閉鎖された場所というのは「常識」や「社会」がない世界。そこに蠢く人々の感情だけが結晶化する特異な世界なのだ。

おそらく手塚治虫は「奇子」を通して、そこに人間同士が陥る「無間地獄」をあぶり出そうとし、田亀さんはそんな「奇子」の閉鎖空間に、被虐と加虐が果てしなく解放される「ユートピア」を発見したのではないだろうか。「奇子」はバッドエンドで終わったが、「外道の家」のラストには、自らの欲望を解放したものたちならではの崇高な「昇華」がある。ぼくはそこに閉鎖空間という名のユートピアを描いてきた作者が、敢えて「奇子」の世界に挑んだ理由を感じるのだ。

最後にもう一つ。蛇足を承知で、近年の田亀さんの活動そのものにも「手塚的」な部分を感じずにいられないことも記しておきたい。

ゲイ雑誌「G-MEN」のプロデュースや、ゲイアート史を学術的に網羅した「日本のゲイ・エロティック・アート」シリーズの監修など、ジャンルの地位向上のために尽力している氏の姿に、アトムブームのさなかにわざわざ「医学博士」の学位を取得し、PTAなどによるマンガ・パッシングを食い止めてみせた「神様」のオーラを感じているのは、きつとぼくだけではないはずだ。

表現者として、研究者として、そして開拓者として、トップランナーの位置を独走し続ける田亀さん。その作品はゲイコミックだが、すでにゲイ「専用」コミックではない。

大西祥平

おおにししょうへい ライター、原作、評論、自主マンガレーベル運営などマンガに関して多岐にわたる活動を展開する、自称・漫ぶらあ。書店「タコシエ」のスタッフもつとめる。編著書に水声社刊行の「マンガ地獄変」シリーズ、原作／協力作品に「警視正 大門寺さくら子」「極道めし」など。



この本には皆さんがそれぞれの感想をお持ちになったと思うので、「こ」では私が見た田亀源五郎氏についてを。●熊ヒゲの穏和な笑顔とフイに見せる鋭い眼光●かなりの巨漢ながら俊足●自宅ベッドの四隅に拘束用のフックがついていた●エロ経験のマニア度で勝てる者なし●ワンカップ大関のコップを使う食堂での「こーゆう店初めて」発言&結婚前の「こ母堂が超有名作家のお見合い候補だったことなどから家柄の良さがうかがえる●執筆中集中しすぎて便所(大)に行くのを忘れ(以下自粛)●個展のため渡仏する氏に「俺今パリ」というスノッブなメールがほしいとお願いしたところ多忙の中快く送ってくれた等：長々書いて何が言いたいかというと、田亀氏が極めて多面的で魅力ある怪人物だということ。そんな怪人作家が生み出す素晴らしい作品を、同時代に読める喜びを多くの人に知ってもらいたい。そしてこれからも、この怪人が私たちを魅了し続けてくれることを心より願っています。

児雷也

じらいや 会社員兼画伯。1998年より本業のかたわらゲイ雑誌にイラストレーションや漫画を発表。著作に漫画短編集「五人部屋」「仰げば尊シ」(古川書房)画集「THE ART OF JIRAIYA」(仏版)がある。1967年生まれ・多肉中背・心身共に極めて頑強。



「外道の家」完筆おめでとうございます。この作品は、まさに田亀キャラというべき容姿の「真蔵」と「惣右衛門」の愛の物語。どんなに酷い仕打ちを受けても、それが「信頼」を生み、「愛」に変わり、そして誰もが理解出来ないであろう「絆」ができる物語の流れは、これまで描かれてきた物語の総集編と言った感じ。さらに「女性の性器（よりによって老婆）」という、自分にとってはタブーに近い描写が加わり、ああ、田亀先生はもう雲の上の人なんだなと痛感。彼にならどんなタブーも打ち破れる。タブーの中の愛を、これからもどんどん描き続けて行っして下さい。本当にお疲れ様でした！…にしても田亀先生、反則です。「門田大介」最後にこんなキャラを出して萌えさせてくれまして。門田太吉とのカラミも捨てがたいけど、名もない柔道教師も狙ったようなキャラで、こんな展開もありかと思ひ、未熟ながら寄稿させて頂きました。

藤本郷

ふじもとこう ゲイ雑誌「Boys」や「G MEN」の他、一般誌でイラストや漫画を発表。ゲイ向けゲームのキャラクターデザイン、またカレンダーやTシャツの製作など、多岐に渡り活動中。

1973年4月16日生まれ。

あとがき

そもそもの始まりは、新婚初夜に新妻の眼前で義父に犯される入り婿の話を、横溝正史っぽい雰囲気描いてみたいという発想だった。それと同時に、ゲイ漫画の枠を壊してみたいとも思った。ジャンルフィクションでは、これこれはかくあるべしという類の枠が要求されがちだが、時としてそれがジャンル全体の退屈さに繋がるように思えたからだ。

その結果、女キャラとの絡みが多いわ、かと思えば、男のヌードすらない回が延々と続くわ……と、ゲイ漫画としては些か異形の作品になった。これが許されたのも、ひとえに掲載誌『バディ』の懐の深さゆえである。担当のみさおはるき氏、および同誌関係者諸氏には、改めて深く感謝を捧げたい。

また、寄稿してくださった大西祥平氏と児雷也氏と藤本郷氏、いつも手伝ってくれる「とうちゃん」と「熊」、そして応援してくださった読者の方々へも、重ねて厚く御礼を申し上げます。



余談。

横溝つぼさについては、具体的には特に、市川崑の映画版「病院坂の首縊りの家」と、手塚治虫の『奇子』からの影響が大きい。そのオマージュの表明として、萩乃の髪型を「病院坂……」から、漫画の最初の「コマ目を『奇子』から、それぞれ引用させて頂いた。

また、自分の作劇法も、従来とは少し変えてみた。今までの長編は、ラストシーンを決めてから描いていた。しかし本作ではラストはおろか、数回先の話すらあえて決めずに描いてみた。それによって、モノガタリを非作為的に「成長」させてみたかったのである。

結果として、その影響が最も顕著に表れたのが、大介というキャラと、モノガタリの着地点だった。そもそも大介は、臆に溜まった他人の精液を吸わされるという恥辱責めの副産物として、偶発的に誕生した。それが勝手に「成長」し、やがて寅藏を、そしてモノガタリをも救ってしまった。私自身、想像だにしていなかった結末である。

そして何より本作では、自分の漫画を、そして面白い漫画を描くことを心掛けた。「首尾は？」と問われれば、「すべき事はいたしました」とお答えしよう。

願わくば、皆様にもお楽しみ頂けますように。

外道の家<下巻>

月刊ボディ2008年5月号増刊

2008年3月31日初版第1刷発行

著者 ■ 田亀源五郎

編集人 ■ 古屋啓二

発行所 ■ (有)テラ出版

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-14-5 新宿KMビル702号室

TEL.03-3350-3922 (編集) 03-3350-1738 (営業)

FAX.03-3350-1016 (共通)

E-mail badi@terra-publications.co.jp (編集)

sales@terra-publications.co.jp (営業)

発売所 ■ (株)技術と人間

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-14-5 新宿KMビル1001号室

TEL.03-3350-5880

印刷所 ■ (株)スリーライト

- この物語はフィクションであり、実在の人物、団体名とは関係ありません。
- 造本には充分注意しておりますが、乱丁本、落丁本の場合はお取り替え致します。お手数ですが、購入された書店名を明記して発行所までお送りください。送料小社負担にてお取り替え致します。
- 本書の一部、または全部を無断で複製、複写、転写、上演、放送などを行うことは、著作権法で認められた場合を除き、著作者および出版者の権利の侵害となります。



PRINTED IN JAPAN



こんな感覚初めてだ……これが……



堀川家の血筋ってヤツなのかな？

絶対権力者・惣右衛門が

脳卒中で倒れ、時は流れた……

堀川家の妖婆の死の秘密と共に、

蔵に封じ込められていた寅蔵。

言葉を失い、阿呆の口クとして

ふたたび解放されるが、

外道の血筋は絶えてはいなかった……

田亀源五郎による不朽の名作、ここに完結



定価1,500円
本体1,429円

雑誌07486-05
L2008.5.31

4910074860584
01429